

26年6月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 5月20日～ 26年6月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
6月分の回答企業数は20社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/6月	7月	8月
入荷動向	スギ	△ 4.2	△ 8.3	△ 8.3
	ヒノキ	△ 5.0	△ 35.0	△ 45.0
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	△ 8.3	0.0	0.0
	ヒノキ	△ 20.0	△ 30.0	△ 30.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	0.0
在庫動向	スギ	22.7	4.5	0.0
	ヒノキ	15.0	△ 15.0	△ 15.0
	カラマツ	△ 50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	25.0	25.0

原木入荷は、スギ、ヒノキともに減少傾向で推移、特にヒノキの減少幅大、カラマツは6月の横ばいの後7、8月には増加に、トドマツは横ばいで推移。

消費は、スギは6月の減少の後7、8月は横ばいに、ヒノキは減少傾向で推移、カラマツは6、7月の横ばいが8月には減少に、トドマツは6、7月の減少が8月は横ばいに。

在庫はスギは6月の増加が8月に向け横ばいに、ヒノキは6月の微増が7、8月は減少に、カラマツは6月の減少が7、8月は横ばいに、トドマツは6月の横ばいが7、8月には増加に

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/6月	7月	8月
スギ	△ 37.5	△ 20.8	16.7
ヒノキ	△ 50.0	△ 16.7	5.6
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

スギ、ヒノキの原木価格は、6、7月の弱保合から8月にはやや強保合ないし保合に、カラマツ、トドマツは横ばいで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き) ・トドマツ入荷は、国有林システム販売締結先決定し、システム締結できた工場は安定す
(原木価格) ・トドマツ高止まりの予想。
・スギの中目は落ち着いているが、柱丸太高い。 ・ヒノキの出材が減れば下げ止まると思われる、スギはしばらく下落傾向。 ・ヒノキは柱材は横ばい、土台用は弱含み、一部の材は昨年の上昇前の相場になりつつある。
・ヒノキ7月より少しづつ価格の上昇が始まると思う。 ・梅雨のため品傷みが出るので価格下落の見通し。
・スギ、ヒノキともに基本的には横ばいだが、ヒノキは他地域の安い製品があるのでやや下落している。 ・7、8月は季節要因で出材が減ると予想、原木はやや上昇すると思う。 ・丸太の入荷量と製品需要の動向に左右されるが、極端な落ち込みはないと思う。 ・スギ丸太は現在下落しているが梅雨の影響と需要期近づくとつれ上昇と予想。 ・どのメーカーも当用買いに徹しているが、この単価では出材が減りそう。

26年6月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/6月	7月	8月
生産動向	スギ	△ 18.2	△ 9.1	18.2
	ヒノキ	△ 16.7	△ 22.2	△ 16.7
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 25.0
出荷動向	スギ	△ 13.6	△ 4.5	0.0
	ヒノキ	△ 27.8	△ 22.2	△ 16.7
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 25.0
在庫動向	スギ	40.9	27.3	36.4
	ヒノキ	44.4	25.0	27.8
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

スギ製材品の生産は、6、7月減少の後、8月には増加に、ヒノキ及びトドマツは減少傾向で推移、カラマツは6、7月の横ばいの後、8月には減少に。

スギ製材品の出荷は、6、7月の減少の後、8月は横ばいに、ヒノキ、トドマツは減少傾向で推移、カラマツは6、7月の横ばいから8月には減少に。

在庫は、スギ、ヒノキともに増加傾向で推移、カラマツは横ばいで推移、トドマツは減少傾向で推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/6月	7月	8月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 36.4	△ 36.4	4.5
	柱角 KD12×3	△ 50.0	△ 40.0	△ 5.0
	通し柱 12×6	△ 18.8	△ 12.5	0.0
	桁角	△ 18.8	△ 137.5	△ 6.3
	母屋角	△ 31.3	△ 25.0	△ 18.8
	タルキ	△ 21.4	△ 14.3	△ 14.3
	間柱	△ 27.3	△ 18.2	△ 9.1
	ヌキ	△ 14.3	△ 21.4	△ 28.6
	平割	△ 28.6	△ 28.6	△ 21.4
	ラミナ	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 50.0	△ 33.3	△ 11.1
	柱角 KD12×3	△ 44.4	△ 33.3	△ 11.1
	土台角 10.5×4	△ 55.6	△ 38.9	△ 16.7
	土台角 12×4	△ 50.0	△ 44.4	△ 22.2
	通し柱 12×6	△ 30.0	△ 30.0	△ 20.0
	ラミナ	△ 12.5	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

スギ製材品の出荷価格は、10.5×3のKD柱角、通し柱が6、7月の弱含みないし弱保合が8月に保合になる他は、全ての品目で弱保合で推移。

ヒノキは、ラミナの弱保合ないし横ばいを除いて、他の品目は全て弱保合ないし弱含みで推移。

カラマツ製材品及びトドマツサンギは横ばいで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動) ・トドマツ引続きフル生産、出荷も相変わらず好調、建築材不調もサンギの引合いは強い、在庫ゼロの状態続く。

・スギ製材品の売れ行き悪い。・原木市場の出材がヒノキからスギにシフトしてきている。出荷はヒノキ、スギとも減少傾向であるが、ヒノキ3mはしっかりしている。スギ3m、120×120、ヒノキ4m、120×120、105×105の在庫が増加を続けている。・ヒノキ製材品生産は通常通り、例年の同月比で見ると平年並みの出荷、昨秋頃が忙しかったので急に減少したように感じるが、実際はそこそこ動いているかも、在庫を積み増すように生産を上げるよう指示している。・ヒノキは、6月～8月については生産出来ただけは売っていきたいと思う。生産と販売を同じに。・7月、8月は生産、出荷が底。6月は在庫を増やす、7月、8月は売りの状況を見て判断。・スギ製材品の安定的な生産体制確立を目指す。出荷はスギ製材品、特にG材のだぶつき目立つ。需要期に備え在庫するメーカーが多いのではないか。・スギ12角は動きが非常に悪い、ヒノキ柱、特に10.5角は注文が激減。出荷は盆明けに期待、一部では7月からは多少良くなるのではとの情報も。

(製材品出荷価格動向) ・トドマツサンギ当面横ばいか？夏以降の丸太価格次第。

・スギ柱角は原木が高い。

・スギは市場単価が下落してきた、スギ製材品が下落傾向、ハウスメーカーの価格も下げられた。ヒノキ3m材と4m材の価格が逆転(3mより4mが安くなった)。ヒノキ4m、120×120は売りづらい。

・スギ12cm角は10.5cm角と比較して需要が少ないので価格上昇が少ない。消費税の反動で下落していたが今後は円安が続くとみる。ヒノキは6月は下落であるが7月より受注増の見通し。・ヒノキは、6月はなんとか横ばい、7月、8月は落ちると予想。・ヒノキ角材は上がる前の相場よりも安くなった、これ以上は下がらないと予想。

26年6月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/6月	7月	8月
仕入動向	米マツ丸太	△ 25.0	25.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 25.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ丸太の仕入れは6月の減少が7月の増加を経て8月には横ばいに、NZラジアータ丸太は横ばいで推移。

米マツ丸太の消費は6月の減少が、7月の増加を経て8月には横ばいに、NZラジアータ丸太は横ばいで推移。

米マツ丸太の在庫は、減少傾向で推移、NZラジアータ丸太は横ばいで推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/6月	7月	8月
米マツ丸太	△ 50.0	△ 50.0	△ 25.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	△ 50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ丸太価格は弱保合ないし弱含みで推移、NZラジアータ丸太は6,7月の横ばいが8月には減少に。

モニターからのコメント

(原木荷動) ・NZラジアータの生産は変わらない。

・

(原木価格動向) ・NZラジアータはFOB価格下降中、中国港在庫調整により一時的現象。

・

26年6月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/6月	7月	8月
生産動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	0.0	25.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	△ 50.0	25.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

米マツ製材品の生産は6月の減少が7月の増加を経て8月には横ばいに、NZラジアータ製材品は6月の横ばいが7,8月には減少に。

米マツ製材品の出荷は6月の横ばいが7月の増加を経て8月には横ばいに、NZラジアータ製材品は6月の横ばいが7,8月には減少に。

米マツ製材品の在庫は6月の減少が7月の増加を経て8月には横ばいに、NZラジアータ製材品は6月の横ばいが7,8月には増加に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/6月	7月	8月
米マツ平角		△ 25.0	△ 25.0	0.0
米マツ正角		△ 25.0	△ 25.0	0.0
米マツ小割		△ 25.0	△ 25.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)		0.0	0.0	0.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

米マツ製材品は総じて6,7月の弱保合が8月には横ばいに。

NZ材梱包材及び土木用材はいずれも横ばいで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・NZラジアータは多少需要減の状態、夏以降は回復見込み。

(製材品出荷価格動向)

- ・NZラジアータは価格は変わらない、できるだけ維持する予定、秋以降は再度原木価格上昇の見込みのため、市場の安定を計る。